

大地から学ぶ越路の

おいたち



(噴出するガスの炎)



東山油田巡検(桂山鉱山)

(ポンピングパワー)

【主な内容】

- ・ 東山油田巡検報告
- ・ 川の岸边にできた「むら」と「まち」
- ・ 中越沖地震に学ぶ防災講演会 参加報告
- ・ 平成20年度総会資料
- ・ 総会記念講演会案内

五百川 清氏

春の巡検・東山油田巡検記

巡検日：5月10日(土)

大地の会 今井 俊夫

その日の朝はいつになくちょっと肌寒い日であった。午前9時、越路総合福祉センターをバス二台に分乗して出発。バスは長岡地域振興局で東山油田保存会の方々と合流する。そこで保存会の会長から「長年の風雨による腐食や、中越地震と大雨による被災によって坑道掘り他土砂に埋まってしまった。あまり期待しないでほしい」と挨拶があった。

実は私、この巡検ではそういった古い坑道やヤグラ・機械類を沢山見学できるものと期待していた一人であったのだが。

バスは東バイパスに入り小曾根町の道路で東山油田の全貌の説明を受ける。が何もかわらない普通の里山の中から「ここに石油あり」と指摘する戦前のドイツ人技師の存在。現代に生きる我々も驚いた。

午前中は桂山鉱場見学で記念碑、坑夫像、鉱道堀の見学である。

森を抜けて桂山鉱場に入るとドラム缶や大小のタンク類が錆びたまま並んでいる。当時の雰囲気を感じさせる場所である。

坑道掘り記念碑は日本石油が日本石油史上初の坑道掘りの偉業達成を記念し建立(S25年)したものと説明があり、その隣に坑夫が機械を地面に突き刺している坑夫像が置かれていたが沢山の苔がついており歴史の長さを感じさせた。ハイブ長岡にはこの像のレプリカがあるという。

坑道掘りとは、地上から斜坑を掘って石油層に達すると水平に坑道を掘り、しみ出る原油をポンプで汲み上げるもので坑道の総延長は10kmにも及ぶとのこと。



【桂山鉱場の斜坑口】

桂沢斜坑口は戦時的需要から石油開発が国家の急務となり着工、九州の炭坑技術者によって成功し昭和16年に採油を開始したという。その坑口は地震や大雨により埋まっているというが中は暗く、溜まっている水がその姿は見えなくしていた。地上は同じ角度で細い線路がたいぶ上の方まで続いていて最上部のつぶれた小屋の中には土砂や人を運んだのか発動機が野ざらし状態で置いてあった。また、枝線と思われるところにトロッコの台車が車輪も無くなつたまま錆びていた。

近くのプレハブ様式の建物に入ると、ホコリさえなければまだ稼働中の工場現場みたい。大きな応接椅子や事務机、作業靴やヘルメット、掲示書類に採油日報の黒板など当時の生活ぶりがうかがえる姿が残っていた。特に印象に残ったのがヘッドライトであった。



【坑内で使用したと思われるヘッドライト】

又、机の前には通商産業大臣から平成9年に統計調査協力優良事業所として賞されたものが貼ってあった。正にここは平成9年まで操業していたのである。

そして、このあたりは大きな沢であったことが想像できるがこの辺一帯が埋め立てたように平らになっている。この土はトンネルから掘られてきたものであるう。

今でこそ一人一人もいない山奥であるが最盛期には沢山の人が働いていたことが想像できる。そして賑やかな音も...

昼前にはすっかり暖かくなっており上着を脱いでシャツ一枚で快適な気温になっていた。

昼食を石動神社(みやじさま)でとる。日も差しており茶室の中で、屋外のテーブルで、外の芝生の上でとみんな思い思いの場所で憩う。

ここでは事前に注文していた「ニシン」が非常に楽しみであった。実際食べてみると小骨も無く味付け

も美味しく大満足であった。

再度訪れてこのニシン弁当を注文したいと思う。

午後からは浦瀬山鉦場の見学である。

最初に「古志郡東山興油利開新道の碑」。東山油田の開発当初は一人一人がようやく歩けるほどの難路であったというがそれを新道開削し、それが輸送力アップとなり油田開発が著しく進展したのだという。又、この碑は中越地震で倒れたというのがこの時は立派に修復されていた。また、近くにはその当時の石油の道があるが今の感覚ではそれでも非常に狭く感じる。

次は「東山油田開祖小坂松五郎碑」を見学。小坂松五郎とは浦瀬山腐沢で石油の採掘を行ない最初の成功者になった人。この碑も中越地震で倒れ最近までそのままになっていたというが直されていた。

それからは細い道をどんどん上がって東山油田発祥の地腐沢へ、山辰さん(殖栗辰蔵)という人は浦瀬山の腐沢で山田を耕していた。明治17年頃田に流れている臭水に着目し、前述の小坂松五郎の元へ古徳利に詰めて持参したという。その山辰さんの田という場所を保存会の方から説明をうける。今はもう荒れていて説明がなければ田圃があったとはわからない場所になっていた。



【山辰さんの腐沢の田】

そしてポンピングタワーへ。

まずは保存会の方から模型による採掘メカニズムの説明を受ける。

そして山中にすごい大型の採掘関連機械。大車輪。そしてこれが平成六年迄動いていたとは驚きである。こんなにすごいものがこの前迄動いていたのかと。

この山の中の大きな建物、冬も操業していたとか。通勤や雪掘りなど考えただけでも想像を絶する。

現存する東山油田の建物は今も保存会の人達が冬はカンジキをはいて雪掘りにいっているという。聞いてびっくりである。

そしてやっと見つけた小さな櫓。あとでそこに案内してもらおう。この櫓も平成六年迄動いていたという。ポンピングタワーから動力源をもらってこの地の下から掘り出していたのだろう。深さ600mの所から汲んでいたという。

何故やめたのか？と聞くと「原油安が理由でやめた」とか。

そして保存会の方が、この櫓の地下に溜まっているガスに火を着けるといふ。

幾つかのバルブを開けて手に持ったホース先にライターをこすると赤い炎が音も無くゆらゆらと燃えている。感動。



【地底からのガスが炎となって揺れる】

我々の故郷は越路であり今の越路は全国有数のガス産地である。大きなガスの炎も幾度も見てきている。それには感動せずにこの小さな炎に感動してしまうのは何故なんだろうか。

越路のガスが地下五千メートルからであり大地の奥深くという感、この櫓のある場所は標高約500m位か、だとすれば平野から下約100m位。言い換えれば地下100mから出ていると考えても良い。その近さ故なんだろうか？

今回の巡検はこの“炎”を見て終了となった。

東山油田保存会の方々は長岡地域振興局の前で別れて福祉センターに戻った。

一日中親切丁寧にのご案内いただいた保存会の方々には改めて御礼申し上げます。

全体の感想であるが、これだけの史跡・産業遺産が雨ざらしの状況で姿や形が消えていくのは非常に残念である。建物や機材、土地や採掘権等が現存する会社の所有となっており難しいものとは思いますが一箇所に集めて石油記念館みたいなものがつくれないものかと思う一人である。

以上

川の岸边にできた「むら」と「まち」

- 人と土木と「水の文化」を考える -

五百川 清(近代地域史研究家)

講演レジュメ

1. はじめに - 「西川と坂井郷の人びと」 -
2. 「川が育むらしと自然」
川と暮らし……「洪水」と共に
川と暮らし
3. 「むら」と「まち」の成り立ちとその思想
「草分け」…「庄屋」・「親様」 - 「水田・灌漑」
「治水・利水」…役所
近代 第二次大戦 高度成長 技術革新とその思想
・「農業革命」 - 「六化」(機械・化学・装置・単作・専門・大規模)
・「都市化と農村」 - 水田の変容(パイプライン化と水田環境)
自然災害と「人災」をめぐって
・水害と治水(土木技術・大河津分水とその波及)
・「災害論」 - 越後平野の「水思想」と良寛
そして 青山 士
・自助・共助・公助と「共同体 - 高度信頼社会」
『語りつぐ10.23』を読んで - 大地の会の志
4. おわりに - 「越路」 - 山と川と田の歴史にふれて
「横田切れ」(1896・M29)と釜ヶ島、中島の水害
信濃川・渋海川・須川(瀬替)・焼田川…
「義」の系譜 - 「浦村組頭 岡村権左衛門」と水争い
十楽寺堰、飯塚堰…1964 (S39) 固定堰 設置
割地償行(釜ヶ島、飯島、中沢、宮川外新田)
「門徒」 - 来迎寺・紫雲山安浄寺、明鏡寺、慈光寺、長永寺 - 寺の系譜?
中世 - 山城(榊形山、勝平城跡…)
神社の系譜?

1. はじめに

昨年('07.10.30)の講演では、標記の主題で「西川と坂井郷の人びと」を一例として、歴史と文化ということにふれ話をしました。

当日のレジュメには、「越路」の「山と川と田の歴史」の話も、『新潟県の地名』(平凡社)の「越路町」の項から抜き出して、コピーで配布し行うつもりでしたが時間の見誤りでできませんでした。講演の翌日、小川さん、永井さんのご厚意で、渋海川に沿って「越路」の歴史と自然の旅を案内していただきました。今回は『越路町史 通史編』を入手、通読し、渋海川の大地にくり広げてきた人びと歴史と文化について、再度、標記の主題にふれ、語らせていただきました。



本図八明治二十九年七月中洪水ノ災害二罹リタル信濃川沿岸古志郡石津村大字釜ヶ島地先破堤ノ状況ニシテ出水後二十七日ヲ経撮影シタルモノナリ(越路町)



本図八明治二十九年七月中洪水ノ災害二罹リタル信濃川沿岸三島郡中野島村大字中島地先堤防破壊シ郷里一円荒蕪ニ帰シタル惨状ニシテ出水後二十七日ヲ経撮影シタルモノナリ(越路町) 【いずれも 大河津分水双書第1巻p43より転載 写真は土木学会附属土木図書館所蔵】

2. 「水の文化と歴史」にふれて

ここで、講演のレジュメでその話を要約します。

第1、川が育む暮らしと自然 という項で、岩塚小学校校歌にふれ、「青田をうるほす川瀬の水も 時にあふれて里人たちのたゆまぬ力を鍛えてくれる…」という歌詞は、むかし「暮らしのなかに川があったことを語っていて、人は川と共に、衣食住そして生産と勤労の文化を築いてきたこと、とりわけ、灌漑や用水で「自普請」とか「出役」といった自治による治水・利水につとめてきたことを理解すべきです。

第2、地域の成り立ちとその思想 - 信仰・文化・技術 では、「水思想」(『大河津分水双書』参照)にふれ、村の開発者「草分け」、親様と呼ばれる庄屋・名主を中心とした共同体があり、その基底には、神

仏への信仰があり、諏訪・神明・戸隠等の神々と仏教「慈悲・愛と同朋・平等」- そこから割地制が生ずる - の仏たちが存在したことを忘れるべきではない。なぜ、「南無の大地」と呼ばれる風土があるか、についても考えたい。

第3、近代 第二次世界大戦 高度成長 技術革新とその思想 では、「農業・農村革命」(「六化」を中心)と「都市化」- 「田園から小川が消えた」- 自然災害と「人災」にふれ、『語りつぐ10.23』(大地の会)の読後感として、「自助・共助・公助」は地域の風土から生まれ、伝統として継承されてきたこと。さらには、地域の「高度信頼社会」が「偽」の横行で「崩信」と呼ばれる世の中が出現しつつあるのではないかという危惧の念を述べたつもりです。

3. 「越路」- 渋海川の歴史の舞台 -

渋海川の旅をとおして、「越路」は越後平野、(新潟平野は中央の命名)新潟のルーツを教えることを自然、歴史両面で実感できたが、「越路」という町名は実によい名をつけたもので、「古志乃美知乃之利(こしのみちのしり)」と記している『越路町史』下巻(453ページ)の町名の由来は発案者初代町長白井又三郎の歴史への深い想いを語ってくれる。「越路」の大地は、どういう意味を持つ存在であったのか、その探求が望まれる。

渋海川は信濃川水系の一支流である。信濃川と越後平野の大地は、人の開発の歩みに伴い「人工的」に改造されてきた。渋海川についても「洪水防止と耕地確保のため、古くから瀬替えが行われてきた」(『越路町史』)という。越後平野の本格的な開発の歩みは、戦国期以降、近世からといわれるが、いわゆる「肩上がり」の推移=生産力の増大は今日まで続いている。

平野部への進出前夜、中世武士団の多くは、信濃川水系の支流に拠点を置いた。魚野川流域の上田長尾氏-上杉景勝、直江兼続へと続く勢力がその典型といえよう。戦国期をむかえた渋海川流域は、古代からの集落があり、樹形山の城跡があるが、その大地が人びとの暮らしについて、どうかかわりを持ったのか明らかにできないか。

4. 渋海川流域の新田開発と割地慣行

『越路町史』上巻には、「割り地」という一節を設け、次のように説明している。(『同上書』408ページ)洪水被害や地滑りなどの「不利益や被害を村全体で受け止め、一戸に集中する事態を緩和する方法でもあった。」と記し、それは『県史』通史編により、農民主導型と長岡藩主導型の二種類があった。と述べている。

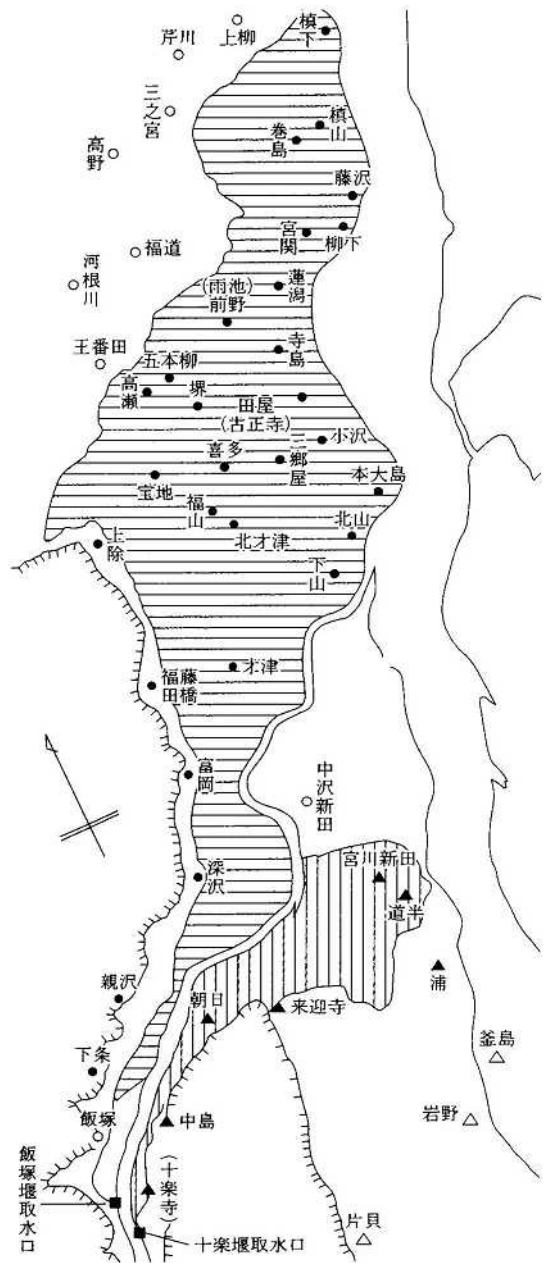


図8 飯塚堰・十楽寺堰下水村々の概念図

『越路町史』上巻 p356 より転載

ここでの説明は、フィリップブラウン(本年、新潟大学人文学部において研究調査中)『割地とは何か』(2001『環』Vol.6)の研究があり、検討の要がある。

「越路」には「割地慣行」(前掲『新潟県の地名』による。)は釜ヶ島、飯島、中沢、宮川外新田等にあったとされる。信濃川下流部では、西蒲原郡地或に集中している。そして、上越中頸城郡にもその慣行の存在が知られている。市川建夫氏は「割地慣行地」は、「全国で最もこの制度が普及したのが、善光寺で

あった」(『千曲川 犀川の本』1993 千曲川・犀川河川緑地連絡会)と指摘している。

前述のように、諏訪社があり、信州とのつながりは、大地の信濃川上流、下流というだけでなく、割地についても考えられるのではないか。越路町の町名の由来にふれて、『越路町史』下巻(453ページ)は「北陸道は日本海沿岸を通り、渋海川を越える処に科野(しなの)路より来たる飯山道を合して信濃川を渡る」と記している。

5. 門徒の寺・「義」の系譜・堰と組

信越のつながりについては、「越路」の寺をあげてみよう。北信濃からの真宗寺院として、長永寺(当初天台宗)、明鏡寺、安浄寺があげられている。

寺の創立と移動について、『越路町史』上巻(554ページ)は詳しく説明している。なお、東洋大学の創設者として知られる井上円了は、慈光寺(真宗大谷派)の長男として生まれたが、その思想の根底には、親鸞の教義から生じた「門徒物忌(ものい)み知らず」(もの知らずではない)があり、迷信打破を目指した、と私は考えている。

前述の割地慣行の発想も真宗教団の「同朋」と通じているのではないか。

義民岡村権左衛門は、これまた『越路町史』に詳しく書かれている。この「義」の系譜は、今、上杉謙信から直江兼続の「愛」へと広く注目を集めている。それは、新潟港町の「明和義人」、中之島の与茂七、西川そいの高橋源助など、越後平野、信濃川流域の人びとが継承してきた精神風土であった。

「義」の系譜は、人びとの共同体(義民岡村は、浦村組頭)が支え、用水と舟運をつかさどった「水組組」に支えられていた。渋海川の「飯塚堰」と「十楽寺堰」がそれである。

6. おわりに

「越路」の歴史と文化は、渋海川とその大地に生きてきた人びとが築いてきた。この小論は、豊かな人びとの伝えてきた歴史の一端にふれただけである。

初対面にもかかわらず「大地の会」の皆さんとは、楽しく語り合う機会が持てた。本年中、もう一度、新潟のルーツ「越路」を探訪する旅を計画している。その節は、ご教示、ご協力をお願いしたい。

最後に渋海川を案内して下さった小川、永井両氏にお礼申し上げ、拙文をとじる。



越路の歴史散策(朝日神社)

2007.10.31

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会 「中越沖地震に学ぶ防災講演会」参加報告

大地の会 小川 幸雄

平成20年2月16日(土)糸魚川消防本部において、大地の会と交流のある「糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会」が主催して「中越沖地震に学ぶ防災講演会」が開催されました。

土曜日午後の講演会ではありましたが、会場を埋め尽くす150名を超える大勢の参加者がありました。

当地域は「糸魚川静岡構造線」が存在することもあるが防災への関心の高さが伺える講演会でした。

講演に先立ち、フォッサマグナミュージアム友の会の久保会長から挨拶があり、「中越地震の爪痕を見学すること計画しており、その前の学習と



したい」、「この講演会は越路「大地の会」との交流の中で企画された」、「友の会のみならず消防本部と共催で開催することができた」、「これを機会に防災について考えよう」と開催の経過と意図を話されました。

講演内容の一部を紹介します。

「中越沖地震における地盤と災害について」

新潟大学理学部教授 立石雅昭 氏

1 新潟 - 神戸ひずみ集中帯と地震

1990年代に入ってGPSによる観測が始まったことで日本各地の観測点の移動を常時精密観測することが可能となり、この観測結果をもとに研究が進められた。

神戸から新潟にかけて、あるいは北海道最北端から新潟にかけて移動方向が急激に変わる帯状の地域が分布し、そこで地震が発生している。(1964年新潟地震、1995年兵庫県南部地震、2004年中越地震、2007年中越沖地震)

2 中越沖地震の特徴

新潟県の地質は複雑で震源断層がなかなか決められない。中越沖でも研究者によって見解が異なる。中越沖地震の特徴は余震が少ないこと。(中越地震は余震の回数が多いことが特徴)

中越沖では砂丘の内陸側に被害が集中、砂丘の海側は固い地盤であるが内陸側は傾斜が緩くさらさらとした砂と堆積物となっており、地盤の違いが被害の差となっている。

中越沖地震は周期の長い揺れが観測されており、これが建物の被害を大きくしている。

3 今後の地震活動と防災計画

ひずみ集中帯では1995年以降、地震の活動期に入っていると見ることができる。糸魚川静岡構造線沿いは今後30年間に発生する確率は太平洋岸について高い地域とされている。

集中帯の本格的な調査はこの春から進められるが、再び大きな地震が起こる可能性が高いと考えられる中で、行政と住民が各々の役割を明らかにしつつ、地域の防災計画を策定することは緊急の課題である。大都会と地方の違いは、地方は住民のコミュニティの強さを生かすことができること。防災計画は住民の命を守るという立場で練り上げ、住民参加のまちづくりと合わせて検討していく必要がある。

などと講演されました。



「中越沖地震で自主防災組織はどう動いたか」

柏崎市議会議員 持田 繁義氏

1 北条地区コミュニティ振興協議会の取り組み

北条地区は、中越地震で柏崎市内で最も大きな被害を受けた地域。23の町内会で構成される地域を統括する防災組織はなく、被災者に対する町内会の対応はバラバラで、地域の防災力を問われ、安全安心のまちづくりに向けて防災組織を整備し、活動を見直すこととした。

中越地震の課題は、町内の被害状況が全く把握できなかったこと。被災者が必要とする物資の把握できなかったこと。安否確認の問い合わせに即座に対応できなかったこと。避難所の対応に差が生じ、不満がでたこと。電話が通じず連絡手段がなかったこと。地域内の食料品・雑貨店が姿を消していく中、日々の食事に事欠く状態になったこと。が上げられ、この課題解決に向けてH17～H18に以下のことを取り組んだ。

コミュニティセンターと町内会の連絡体制の確立。全町内会(21、中越地震で2町内会が廃村)で自主防災組織を整備。コミュニティ振興協議会に安全対策室を設置。災害時要援護者台帳の整備。防災訓練の実施。コミュニティの総菜屋「暖暖(だんだん)」の開設。

2 中越沖地震で生かされたこと

中越地震の傷が癒えないうちの中越沖地震、北条地区では中越地震の教訓が次のように生かされた。

地震発生から2時間で被害状況と必要物資の報告が届いた。被災者にブルーシートなどの物資が迅速かつ公平に配布できた。要援護者の安否確認・誘導がスムーズにできた。地震発生後、防災会議を開催し、被害状況の確認、炊き出しの対応確認、住家被害による仮設住宅入居条件や生活再建支援制度等の情報を共有し、被災者に公平な対応ができた。

地震発生から3日間は自力の炊き出しが必要(自衛隊は3日後)だったが、「暖暖」のスタッフが店の食材を提供・調理、被災者に振舞った。

3 地域の防災力を高めるために

防災活動は「自助：共助：公助 = 7：2：1」といわれているのに対して、住民の多くは公助が7割、自助が1割と思っているのが現実。まずは自分の命は自分で守る(自助)ことをしっかり理解したうえで、地域の安全はみんなで守る(共助)ことにつなげていくことが重要。

地域の防災力を高めるためには「日頃からの近所付き合い」と「リーダー：人づくり」が大切と話されました。

(文責は大地の会 小川)

- 1 総会・記念講演会 日時/場所 平成19年8月10日(金)19:00~21:00 越路総合福祉センター
 講師：関越地域地質研究所代表 群馬大学・前橋工科大学非常勤講師 理学博士 大塚 富男氏
 演題：「信濃川・魚野川合流部周辺の新しい時代の地表変動」
 - 約3万年前の大地の陥没によって生まれた田麦山・武道窪盆地 -
- 2 会報「おいたち」の発行
 - 51号 平成19年7月20日発行
 「語りつぐ10.23」の編集にかかわって、「語りつぐ10.23」アンケートから(1)、
 「新津石油の里」巡検報告、 総会資料他
 - 52号 平成19年9月18日発行
 平成19年度総会記念講演、第2回地域復興交流会議参加報告、
 平成19年度地学講座、「語りつぐ10.23」アンケートから(2) 他
 - 53号 平成19年12月30日発行
 平成19年度地学講座開催報告、大地の会に入会して、
 新潟県中越沖地震発生と緊急報告、防災10か条 他
- 3 地学講座の開催

統一テーマ「川が育む くらしと自然」

 - 第1回 平成19年9月18日(火)
 講演 「川が育む自然」～岩打谷川・渋海川・信濃川の自然環境～
 講師 (株)エコロジーサイエンス主査研究員 大地の会会員 中野 雅子氏
 - 第2回 平成19年10月2日(火)
 講演 「川と人のつきあい」～治水、利水から環境へ～
 講師 長岡技術科学大学名誉教授 工学博士 早川 典生氏
 - 第3回 平成19年10月14日(日)
 野外巡検 「信濃川大河津資料館と治水工事最前線」
 大河津分水可動堰工事、刈谷田川・五十嵐川災害復旧工事
 講師 信濃川大河津資料館館長補佐兼研究員 樋口 勲氏
 新潟県長岡地域振興局災害復旧部、同三条地域振興局五十嵐川改修事務所
 - 特別番外編 平成19年10月23日(火)
 講演 「新潟県中越沖地震調査緊急報告会」
 講師 新潟第四紀グループ 大地の会顧問 理学博士 飯川 健勝氏
 - 第4回 平成19年10月30日(火)
 講演 「川の岸辺にできた“むら”と“まち”～人と水の文化を考える～
 講師 前信濃川大河津資料館館長 近代地域史研究家 五百川 清氏
- 4 諸活動

新潟県中越沖地震緊急報告会・・・地学講座「特別番外編」で実施

春の巡検 平成19年5月12日(土)
 新津「石油の里」を油のしみだす地層と石油の文化遺産をたずねて

長岡技術科学大学公開講座に参加 平成19年8月25日(土)
 「自然災害はなぜ生じるか - 自然災害と地盤の関係」

越路スノーフェスティバルに参加 平成20年2月9日(土) 海牛ミヨシー像を作成

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会防災講演会参加 平成20年2月16日(土)

岩石カッターの整備、追加。資料の整備(成出管理棟)

成出露頭管理(草刈り 春秋2回)
- 5 役員会

毎月1回(第1火曜日)

1 総会・記念講演会

日時/場所 平成 20 年 6 月 26 日 (木) 19:00 ~ 21:00 越路総合福祉センター
 講師：防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター長 佐藤 篤司氏
 演題：「豪雪を防ぐ・・・やっかいで魅力的な雪氷・・・」

2 会報「おいたち」の発行

年 4 回 発行予定 (6 月、9 月、12 月、3 月)

3 地学講座の開催

統一テーマ (仮) 「ふるさとの大地と緑」

第 1 回 平成 20 年 9 月 18 日 (木)

講演 「長岡地域の平野地盤とその生い立ち」 ~ 良い地盤とそうでない地盤の由来 ~
 講師 (株)興和 調査部 技師長 鴨井 幸彦氏

沖積地盤は場所によって大きく違っていています。長岡地域の地盤はどのようになっているのでしょうか。それはどのようにしてできたのか、などについてお話しします。

第 2 回 平成 20 年 10 月 2 日 (木)

講演 「石ころとの語らい」 ~ 信濃川水系と石ころ ~

講師 新潟県地学教育研究会 会員 新保 暢一氏

川原の石は、私たちの住んでいる大地のおいたちを語ってくれます。越路にも川原があり、信濃川と渋海川の石ころと比較すると違いがわかります。現在の信濃川水系の川原の石を見つめて、流域の大地のおいたちを探ってみましょう。

第 3 回 平成 20 年 10 月 19 日 (日)

野外巡検 (仮) 「河原の石の採取・観察、そのルーツを探る」

巡検場所 信濃川・魚野川流域を予定

第 4 回 平成 20 年 10 月 23 日 (木)

講演 「越路の自然」 ~ 朝日城の森の植物相について ~

講師 (財)こしじ水と緑の会 理事 平澤 聡氏

かつては人の生活の場であった越路の里山は、時代の流れの中で放置されたまま今に至っています。近年、越路の里山の典型を示す「朝日城の森」で、森の整備にあわせてはじまった植物調査の状況を中心に報告します。

4 諸活動

石の加工講座 岩石カッターによる石材加工 (成出管理棟)

会員対象 石の加工講座 7 月 5 日 (土)・6 日 (日) に開催

会員・一般対象加工講座についても開催を予定

春の巡検 平成 20 年 5 月 10 日 (土)

長岡東山油田 (史跡・産業遺産) 巡検 (桂山鉦山・浦瀬山鉦山)

他の地学団体への交流・参加

糸魚川フォッサマグナミュージアム友の会 山古志巡検への参加・協力 (10 月)

東山油田 (史跡・産業遺産) 保存会写真展・講演会への参加 (11 月)

新津石油の世界館友の会、下仁田自然学校 (会報交換等)

大地の会ホームページの運営 (新サイトに移動) 6 月更新

新 URL : <http://daichinokai.sakura.ne.jp/>

事務局 e-mail : koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp

成出露頭管理 (草刈り 春秋 2 回)

その他

5 役員会

毎月 1 回 (第 1 木曜日)

総会資料

平成 19 年度 大地の会決算報告

(1) 収入の部

(単位 : 円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
会 費	360,000	358,000	- 2,000	個人 118,000 円 法人 240,000 円
受講費	50,000	74,500	24,500	春巡検、秋地学講座
受託料	150,000	150,000	0	長岡市より講座、成出露頭管理受託
寄付金	1,000	10,100	9,100	
雑収入	56	6,704	6,648	地学関係書籍の売上金、預金利子
繰越金	111,844	111,844	0	
合計	672,900	711,148	38,248	

「信濃川・越後平野の地形と地質」「信濃川の気象」 他

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	15,000	76,193	61,193	総会、会議会場費
活動費	490,000	343,363	- 146,637	巡検、講座、会報、成出管理棟整備
消耗品費	15,000	29,195	14,195	封筒、用紙代
通信費	50,000	49,380	-620	郵送料
繰出し金	0	0	0	
雑費	1,000	50,400	49,400	地学関係書籍の購入
予備費	101,900	0	-101,900	
合計	672,900	548,531	-124,369	

(収入) 711,148 円 - (支出) 548,531 円 = (次年度繰越金) 162,617 円

平成 19 年度 大地の会マップ会計決算報告

(1) 収入の部

(単位 : 円)

項目	予算額	決算額	増減	備考
マップ販売	25,000	1,500	- 23,500	
雑収入	9	151	142	
繰越金	78,391	78,391	0	
合計	103,400	80,042	- 23,358	

(2) 支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
繰出し金	0	0	0	
雑費	103,400	0	-103,400	
合計	103,400	0	-103,400	

(収入) 80,042 円 - (支出) 0 円 = (次年度繰越金) 80,042 円

監査報告

平成 19 年度における収支決算に関する証拠書類と諸帳簿について監査したところ、その内容が適正であったことを認めます。

平成 20 年 月 日

監事 内山 隆 平澤 聡

総会資料

平成19年度 大地の会中越地震体験集会計中間報告(平成18年~19年)

(1) 収入の部

項目	金額	備考
繰入金	300,000	本会計及びマップ会計
助成金	1,400,000	中越復興市民会議
寄付金	3,000	寄稿者より
祝賀会	153,000	祝賀会会費(75名)
売上金	464,600	928冊+郵送料
雑収入	696	
分担金	84,000	第四紀グループ
合計	2,405,296	

(2) 支出の部

(H20.3.31現在)

項目	金額	備考
会議費	4,853	編集会議
編集費	15,348	取材費用等
印刷費	1,568,000	初版・第2版印刷製本費
事務費	8,403	用紙・インク代
通信費	90,540	郵送料
祝賀会	178,438	祝賀会・会負担
合計	1,865,582	

現在残高 2,405,296 - 1,865,582 = 539,714円

平成20年度 大地の会 予算(案)

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
会費	360,000	360,000	0	
受講費	60,000	50,000	10,000	春巡検、秋地学講座他
受託料	150,000	150,000	0	長岡市より講座、成出露頭管理受託
寄付金	1,000	1,000	0	
販売収入	30,000	0	30,000	書籍・資料(体験集・マップ以外)販売
雑収入	83	56	27	
繰越金	162,617	111,844	50,773	
合計	763,700	672,900	90,800	

(2) 支出の部

項目	予算額	前年度予算額	増減	備考
会議費	70,000	15,000	55,000	総会、会議会場費
活動費	560,000	490,000	70,000	野外巡検(40,000)、地学講座(150,000) 岩石加工(100,000)、会報(130,000) 成出管理棟環境整備(100,000) 交流費(40,000)
消耗品費	20,000	15,000	5,000	封筒、用紙代
通信費	50,000	50,000	0	郵送料
雑費	10,000	1,000	9,000	
予備費	53,700	101,900	-48,200	
合計	763,700	672,900	90,800	

平成20年度 大地の会マップ会計 予算(案)

(1) 収入の部

(2) 支出の部

項目	予算額	前年予算額	増減
マップ販売	3,000	25,000	-22,000
雑費	58	9	49
繰越金	80,042	78,391	1,651
合計	83,100	103,400	-20,300

項目	予算額	前年予算額	増減
繰出し金	0	0	0
雑費	83,100	103,400	-20,300
合計	83,100	103,400	-20,300

平成 20 年度

入場無料

大地の会 記念講演会のご案内



樹枝付き角板

「天から送られた手紙：中谷宇吉郎雪の科学館」より

来る 6 月 26 日に、大地の会の総会を行ないます。
総会の後は、恒例の記念講演会を開催いたします。今回のテーマは「雪」。
この地域の自然環境や人々の暮らしには、雪が深く関わっています。しかし、私たちは意外に雪のことを知りません。この講演会をきっかけに、雪の世界の扉を開いてみませんか。

どなたでも参加できます。大勢の皆様のご来場をお待ちしています。

「豪雪災害を防ぐ・・・やっかいで魅力的な雪氷・・・」

講師： 佐藤 篤司 氏（防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター長）

さとう あつし 氏

小千谷市片貝町生まれ、長岡高校卒。1981年北海道大学大学院理学研究科博士課程（低温科学研究所）修了後、米国モンタナ州立大学特別研究員として雪崩や積雪変質の研究に従事。1985年国立防災科学技術センター新庄支所（山形県）研究員、主任研究官、支所長を経て、2001年より長岡雪氷防災研究所所長、2006年4月より雪氷防災研究センター長。



佐藤氏より：

38豪雪、56豪雪そして記憶に新しい平成18年豪雪がありました。最近の地球温暖化傾向のもとでも、我々の越後は豪雪に悩まされています。雪氷災害研究はどこまで進んでいるのか。現在の研究成果を紹介致します。

また、憎い豪雪ではありますが、雪とそれを作っている氷は、とても不思議な物質です。また、地球環境にとって、重要な役割も果たしています。そんな危険で魅力的な雪と氷の話もお楽しみに。



雪女 鳥居言人作

「雪花譜：高橋喜平他」より

【と き】 平成20年 6月26日(木)
午後7時30分～9時まで
大地の会総会：午後7時～7時30分)

【ところ】 越路総合福祉センター
長岡市来迎寺3697
電話 0258-92-4656

【申し込み】長岡市教育委員会越路分室
電話 0258-92-5910

資料準備の都合上、6月19日(木)までにお願ひします。
なお、当日参加も可。



主催： 大地の会 ・ 長岡市越路公民館

石ころも、もって、みがけば、宝物!

岩石加工講座のご案内

このたび、成出管理棟の岩石加工施設がようやく整い、ここで快適に岩石を加工できるようになりました。岩石カッター3台、研磨機2台などが、今か今かと出番を待っております。たとえば、河原の石ころを持ってきて、ここで切断、研磨すれば、ピカピカの飾り物にすることができます。

そこで今回、会員および役員の方を対象に、下記の岩石加工講座を開催し、一連の作業をとおして機械の使い方や岩石加工の技術をマスターしていただきたいと考えております。

使い方をマスターした会員の方は、お近くの役員に申し込めば、いつでもここで加工ができるようになります。

また、せっかくの施設ですので、ゆくゆくは一般の子供や大人を対象に「岩石加工教室」などのイベントを開催し、石ころの魅力、それを生み出す大地の魅力を感じ取っていただきたいと考えております。その際には、岩石加工の技術をもった役員・会員のご協力が必要で、イベントの際にはぜひとも、石加工の先生として、一般の方々にご自身の技術を伝授していただければ幸いです。

岩石加工講座

下記の日時に、成出の管理棟2階に指導員が常駐しております。ご都合のよいときに、お好みの石をご持参(なくても可)いただければ、加工のしかたをマンツーマンで伝授いたします。それほど難しくはありませんので安心です。おひとり、2~3時間くらいはかかるかと思えます。

なお、この日時でご都合の付かない方でも、お近くの役員にお知らせいただければ、別途講座を開きます。

日時： 2008年7月5日(土)・7月6日(日)の 9時~17時までの間 いつでも

場所： 成出グランド管理棟2階

お申込み不要・直接現地へおいください。

岩石加工講座に出ると……3大メリット!!

1. 岩石加工の技術を習得でき、今後はいつでも施設を使えるようになります!
2. 講座で加工した石をお持ち帰りできます!
3. 一般の方々を対象とした岩石加工イベントに、「石加工の先生」として活躍できます!

(強制するものではありません)



お知らせ

「語りつぐ10.23」-ふるさとの大地と中越地震- CD版の頒布
昨年発刊した大地の会中越地震体験集のCD(pdf)を作成しました。
一部500円です。ご要望の方は事務局まで申し込みください。



大地の会ホームページ、サイト移動のお知らせ

大地の会のホームページについて、新しいサイトに移動し更新しました。
よりわかりやすい情報発信に努めたいと考えています。ご意見をお願いします。

大地の会 URL : <http://daichinokai.sakura.ne.jp/>

地学関係書籍のご案内

国土交通省 信濃川河川事務所から『信濃川・越後平野の地形と地質』(前号で案内)に続き『信濃川の気象』が発刊されました。信濃川の洪水と気象の関係など図表や写真で大変わかりやすく解説されています。大地の会で会員用に50部確保しました。各々一部500円です。ご要望の方は事務局まで申し込みください。

会員の皆様へ

会員募集！仲間づくりにご協力をお願いします

大地の会は、大地の成り立ちにかかわる学習を通して、より深く地域を理解するとともに、会員相互の親睦を深め、地域づくりに貢献することを目的としています。大地の成り立ちや遺跡・環境・防災などをテーマとした講座や野外巡検を、楽しみながら活動しているところです。

今年度からは、不動沢成出の岩石カッターや研磨機を揃えた「石の加工工房」(成出運動公園管理棟)も充実し、石を切って磨いて楽しむことができるようになりました。これを機会に多くの方々から会員となって「大地の会」の活動に参加していただきたいと考えています。ぜひ、お近くの方々の声をかけていただき、活動の輪をひろげていきましょう。ご協力をお願いします。

なお、会の活動を支えていただく賛助会員も募集していますので、併せてご協力よろしくをお願いします。

年会費 個人 1口 1,000円(中学生・高校生は無料)
家族会員 500円(同一生計は何人でも)
(講座・巡検参加の際は資料代等年会費とは別に500円程度必要となります)
賛助会員 1口 10,000円

申し込み先：長岡市教育委員会越路分室 又は大地の会役員をお願いします。

会報「おいたち」への投稿をお願いします。

「おいたち」は大地の会の活動内容を参加できなかった会員への報告や地学・地域づくりに関する情報提供を行うとともに、会員同士の意見交換・情報交換の場です。記事掲載のご要望や投稿をお待ちしています。

賛助会員紹介

帝国石油株式会社国内本部
朝日酒造株式会社
株式会社エコロジーサイエンス
有限会社越路地計
大原技術株式会社
有限会社広川測量社
高橋調査設計株式会社
株式会社長測
有限会社中越測量社 順不同

大地の会会報 おいたち 54号

2008.6.10 発行

問合せ先 〒949-5493 長岡市浦715番地
長岡市教育委員会越路分室
担当 桑原浩志 TEL 0258(92)5910
ksj-kyoiku@city.nagaoka.lg.jp
大地の会代表 小川幸雄 携帯：090-4672-7681

事務局 e-mail : koshiji@daichinokai.sakura.ne.jp
大地の会 URL : <http://daichinokai.sakura.ne.jp/>